

梅鶯仏教壮年会報

第172号
2021年
9月26日

月のひかり

金子みすゞ

月のひかりはみつけます
暗いさみしい裏町を

いそいでさつと飛び込んで
そのまぶしいみなし児が
おどろいて眼をあげたと
その眼のなかへもはいります
ちつとも痛くないやうに
そして、そこらの破ら屋が
銀の、御殿にみえるよに

子供はやがてねむつても
月のひかりは夜あけまでも
しづかにそこは佇ってます
こはれ荷ぐるま、やぶれ傘
一本はえた草にまで
かはらぬ影をやりながら

うつくしいものを
美しいと思える
あなただのころが
うつくしい

相田みつを

（質問）お釈迦様は「常見外道、断見外道、すべて惛破さ
れた」とありますが、人間が
死んだら肉体は消滅されます
が、魂はどうなるのか？
存在するの？しないの？
か？
すべて無くなるのかの説明
をして下さい。

「死んだらどうなる？」
「靈魂はあるのか？」
ありこれは私達の素朴な疑問で
論じられてきました。
は、この質問に対してお釈迦様
と言われます。
「これが一、二の無記」と呼
ばれるもので、抽象的な議論
を重ねるのではなく、実際に
人生を正すことから始めな
さいと教えられたのです。
無になる（断見外道）無の
見）「という考え方と、肉
体は滅びても靈魂は存続する
（常見外道）有の見）」とい
う考え方がありましたが、お
釈迦様はそのいずれでもな

いことを明言されました。
議論は続いたのですが、その
「有無の見」の議論を惛破
（論破）されたのが龍樹菩薩
さまです。
龍樹菩薩さまは、特定の見
解に固執することが「我執」
であり、仏教はその執着から
離れ、固定する考えをどこま
でも否定する教えであること
を示されました。
に「空・無自性」といい、固
定的ではないということをも
本として、靈魂というものを
な存在は認めませんが、独立
いつても存在しないという
考え方は、現在のわれわれの
「業（行い）」が、自らの次
のわれわれをつくり上げてい
くと考えます。
有るがつかって、死後の世界が
も、要は今のかという方が大
切な問題となつてくるので
す。

題材法話

蔵野私が現在奉職する武蔵野大学は浄土真宗本願寺派の大学の関係で、その一建学の精神は、ある、仏教の根本精神で、ある、四弘誓願（しごく）を基礎とす。する人格教育にありま

法要などBGMは音楽としてあ

て、使われることもあ

り、仏教讃歌としてあ

馴染みがありすが、

その意味合いは少し難

しいため、武蔵野大学

では常に意識文を添え

て発信してきます。

衆生无边誓願度の

が生きとし生けるもの

に煩悩無数誓願断に

おむさぼり流されず

この門無誓願学がま

まの真実世界にあるが

○宇宙の真理

われの世界を離れ、とら

ころに究極の安らぎと

ある」と説くために、そ

を説き示すために、宇

宙の真理を明らかに

されまし。真理は、

「縁起」のもは刻一刻

すべてのものは刻一刻

と移り変わる（諸行無

常）何一つとして独

立した存在はなく、他

との相互依存により存

在する（諸法無我）と

いうこともありません。

己に中心なものの見方

により、自苦しみを生

るところにあり、放た

るのから解き放た

われから安らぎの

寂静の安らぎの

（さとり）が

指すのが仏教で

「そのために、今

が互いに支え合



ん。

とりつかり仏教は自らさ

が目的で、その存在を同

時に、他のもの（存在を

最大限に認め、利

他）にしかあり得ないの

です。

なり、利がそのまま利他と

利となる。利他がそのま

満」が仏教の求める世界

なのです。

仏教「四弘誓願」は、大乗

とめるものすべて（共

する願いなのです。

○**仏教が目指す世界**

国際的武蔵野大学の創設者で

楠順次郎博士は、理想高

が高まるに、人格が現

高まり、人格が高まるに

従って高い理想が現出

る」と述べて、仏教

である。尊厳を理想

と、その仰ぎ、私

かつて、人格向上

かちも、人



います、それはまさ

にある「さとりの得る道

（覚者）」ことへの道

に他なりません。

仏の浄土真宗において

は、ここから生まれる味

う、必要がありま

う、必要がありま

の、すべてが真実に目覚

め、お釈迦様と同じ人

格（さとり）を得る

との願いが四弘誓願で

した、そのための条

件ともいうべき内容が

二句目の「煩悩無誓願断」という誓願で

願断」という誓願で

す。

武蔵野大学では、おむ

さぼり流されず、

かさに「断」と書かれ

意訳して「断」と書かれ

文には「断」と書かれ

ています。

悩すなくすことが願